

2019年9月22日(日)朝10:10~ 主の聖靈降臨節第16、自由交歓会等
9月第4公同主日礼拝式説教 日本アライアンス庄原基督教会

説教題：口の利けない人のいやし(33~節)

聖書：マタイ 9章32~34節

＜口語訳＞

新約聖書14~ 頁

マタイ 9章32~34節

＜新共同訳＞

新約聖書16~17頁

マタイ 9章32~34節

＜新改訳第3版＞

新約聖書16~17頁

マタイ 9章32~34節

＜塚本訳＞

新約聖書92~ 頁

主題：主イエス様から賜った聖靈の導き

によって主の弟子たちは、主の名による
神の罪からの救いを宣べ伝えたように、
私たちも、福音を伝えたい。

序論；

- ◇マタイ書は、使徒マタイが、ユダヤ人の立場で王なる救い主(メシヤ)なる神の御子イエス・キリストを証言した記録です。
- ◇マタイ5～7章は、神の御子イエス・キリスト様の山上の垂訓・説教と表現される箇所です。
- ◇本日のマタイ9:32～34は、「いやされた2人の盲人」と入れ違いに「悪鬼につかれた啞(おし)」(塚本訳)が連れられて来、「神の御子イエス・キリスト様」によって、「悪鬼が追い出されると、啞(おし)が物を言うようになった」(塚本訳)箇所です。主題は、「この故に収穫(かりいれ)の主に労動人(はたらきびと)を収穫場(かりいれば)に遣し給はんことを求めよ」です。
⇒「収穫(かりいれ)」が、「御子イエス・キリスト様」の求めておられたことで、マタイ10章以降では、そのために12弟子たちを派遣されます。
- ⇒「悪鬼につかれた啞(おし)」の「いやし」も、マタイによれば、主の「収穫(かりいれ)」で、主は、弟子たちにそれを期待されました。

本論；

◇本日、**マタイ書9章32～34節**から主の**使信**に**思い・心**vousをとめます。

◆**マタイ9章32～34節**；使徒マタイは、神の**権威**が、主のもとに連れて来られた「**悪鬼**につかれた**啞(おし)**」の人から「**悪鬼を追い出し、いやして下さった**」(33節)のです。

◇**32～34節**；塚本訳◆**悪鬼につかれた啞**

「32 ちょうど二人と入れ違いに、人々が悪鬼につかれた啞をつれて来た。

33 悪鬼が追い出されると、啞が物を言うようになった。群衆が驚いて、「こんなことはかつてイスラエル人の中で起つたためしがない」と言った。

34 しかしパリサイ人は、「あれは悪鬼どもの頭(である悪魔)を使って悪鬼を追い出しているのだ」と言った。」と、使徒マタイは主のことばを語っています。

◇**32～34節**；「ちょうど二人と入れ違いに」、「人々が悪鬼につかれた啞をつれて来た」、「悪鬼が追い出されると、啞が物を言うようになった」、「群衆が驚いて」、「『こんなことは

かつてイスラエル人の中で起ったためしがない』と言った』、「しかしパリサイ人『あれは悪鬼どもの頭(である悪魔)を使って悪鬼を追い出しているのだ』と言った」と、「マタイ」は、記しています。

⇒「**悪鬼**につかれた**啞(おし)**」は、「**悪鬼**」が支配して、「**啞(おし)**」にしていることが、この箇所での事実なのです。一般的**啞(おし)**と同じではありません。

⇒「**悪鬼**」の頭は、「**悪魔**」(34)ですから、「**悪鬼**」から解放された人は、「**御子イエス・キリスト様**」によって、「**収穫**(かりと)られた」のです。主に「**収穫**(かりいれ)られた人」は、愛の主の恵みの下に置かれたのです。

⇒「**収穫**(かりいれ)」は、「ガリラヤ」では、夏の時期で、言語も、夏から来ており、「刈り入れる」も、「夏の作業をする」意味で、永遠のいのちの主が、「命のある実」を吹き入れて、アダムが、「生ける魂」とされたように、「**悪鬼**につかれた**啞(おし)**」の人も、「**悪鬼**」が住んでいた「**啞(おし)の心**」に、**神の息吹(神の聖靈)**が、注ぎ込まれたのです。

- ⇒人間的に言えば、「**悪鬼**につかれた啞(おし)」は、主のことばを聞いていませんし、主の前に連れて来られただけの存在でした。
- ⇒「その人の信仰」が、「**悪鬼**につかれた啞(おし)」を癒したのでもありません。「**主の権威**」が、「**悪鬼**」を追い出し、「**神の聖霊**」をその心に住まわせたのです。
- ⇒マタイは、「**御子イエス・キリスト様**」の心の中に、「**神**」を見たが、パリサイ派の人々には、「**悪鬼**」が宿り、「あれは悪鬼どもの頭(である悪魔)を使って悪鬼を追い出しているのだ」と、発想するだけでした。
- ⇒「**啞(おし)**」は、「にぶい者、鈍感な者」の意味で、「耳しい」とも訳せることばですが、「物を言うようになった」(33)から、耳が聞こえないのではなく、無口で、無表情な、物言わない人を意味するようで、**御子イエス・キリスト様**は、先ず、「**悪鬼・悪霊**」に憑かれていると即座に見抜いて、口を開いて下さったのです。
- ⇒**SY師**は、主の洞察力と奇蹟的力とが同時に働いていると仰せです。パリサイ派の人々が、批判的ですが、悪霊によるとした。

⇒**SY師**はさらに、3つの権威、3つの回復(死んだいのちの回復、盲人の回復、啞(おし)の言語能力の回復)の全体に対する結論であるとも仰せです。

⇒モーセ、エリヤ、エリシャ等旧約の人々が奇蹟を行いましたが、主の奇跡は史上最大級のものであったのです(33)。

⇒イザヤ書29:18、35:5、6で、メシヤの時代に盲人、耳しい、啞(おし)がいやされることが預言されていたのです。

⇒パリサイ派の人々の批判は、事実を見、悪霊によると見抜いても、証拠が出揃っても、主をメシヤ(救い主・癒し主)と信じなかったのは、彼らの靈的目が盲目であり、彼らの口が肉の啞(おし)より悪質な真理を語れない口となっていたのです。

⇒啞(おし)も、肉の口は開かれましたが、讃美と感謝は記されていません。先の「**いやされた2人の盲人**」は、「塚本訳 気をつけて、だれにも知られないようにせよ」と主に言われたのに、「塚本訳 彼らは出てゆくと、その土地全体にイエスのことをふれまわった」のです。

⇒エペソ1:17、18;塚本訳

17 われらの主イエス・キリストの神、栄光の父が、知恵と默示との靈を君達に与えて神の知識に至らせ給わんこと、

18 また【君達の】心の目を明らかにして、神に召され(ることによって得)た希望の何であるか、『聖徒の受くる』光榮ある(天の)『相続財産』の富の何であるか、

19 また私達信者に対する神の能力の如何に絶大であるかを知らせ給わんことを願つてゐる——この力強く働く神の威力こそ、

⇒エペソ6:19; 塚本訳

19 また私のためにも、私が(大きく)口を開いて御言を語り、大胆に福音の奥義を示し得るよう——

結論：

- ◇**神**は、変わらない愛と思いやりの神です。
- ◇**マタイ書**は、**使徒マタイ**が、**ユダヤ人**の立場で**王なる救い主(メシヤ)**なる**神の御子イエス・キリスト**を証言した記録です。
- ◇**マタイ5～7章**は、**神の御子イエス・キリスト様**の山上の垂訓(説教)の箇所です。
- ◇本日の**マタイ9:32～34**は、「いやされた2人の盲人」と入れ違いに「**悪鬼**につかれた啞(おし)」(塚本訳)が連れられて来、「**神の御子イエス・キリスト様**」によって、「悪鬼が追い出されると、啞(おし)が物を言うようになった」(塚本訳)箇所です。主題は、「この故に収穫(かりいれ)の主に労動人(はたらきびと)を収穫場(かりいれば)に遣し給はんことを求めよ」です。
⇒「**収穫**(かりいれ)」が、「**御子イエス・キリスト様**」の求めておられたことで、**マタイ10章**以降では、12弟子たちを派遣されます。
- ⇒「**悪鬼**につかれた啞(おし)」の「**いやし**」も、**マタイ**によれば、主の「**収穫**(かりいれ)」で、主は、弟子たちにそれを期待されました。

⇒この箇所の中心メッセージは、「**神の御子、主イエス・キリスト様の権威**」ある力が、「吃音者の口を解く」わざを見せて下さっています。

⇒ツアラート、中風、熱病等や自然界の嵐を静める等の業を通して、「**主の権威**」あるわざなのに、それに与る者の信仰のように見せて下さっています。

⇒私たちが、主のみことばに常に聴く必要があるのは、日常の目線が目の前に見える現実に生き、主の目線で見ていないからです。

⇒ヨハネの黙示録3:17、18;塚本訳;

17 お前は、「自分は金持ちである。金持ちになった。何も足りないものは無い」と言うて(いる。なるほどお前には金がある。しかし)自分(の精神)が(どんなに)惨めな、かわいそうな、貧乏な、盲目な、裸な者である(かという)ことを知らない(。

18 だ)から私はお前に勧める——(一つ)私から火で煉った金を買って(本当の)金持ちになり、白い着物を買って、着て、お前の裸体の恥じが露されないようにし、目に塗る眼薬を買って、見えるようになれ。